

研修を受けて子ども達を守る

よつぎ日野保育園

【研修内容】

1. 感染経路についての講義(座学)～感染症予防マニュアルに沿って～
 2. 使い捨てエプロン・手袋等の着脱、嘔吐物の処理、手指衛生(手洗い:ヨウ素液を使って汚れを可視化等)についての実践
- ※1・2は別日で設定、常勤・非常勤全員参加を基本とした研修を年1回以上実施
- ◎看護師を講師としてマニュアルなどを使った研修を行い、内容の理解を深める。
- ◎実践形式の研修では、実際に体験してみることで様々な振り返りができる。

研修後の反省(振り返り)では・・・

- *頭では理解していたつもりでも、実際にやるとあたふたしてしまった。
- *ヘアキャップやシューズカバーがあることを確認でき、他のアイテムについても正しい着脱の仕方など知る機会があつてよかった。
- *嘔吐物の処理には手順が重要であることが分かった。それを誤るとかえって感染を広げるリスクがあることを再認識した。
- *子どもの手洗いばかり気にしていたが、大人でもいつものように洗っただけでは汚れが落ちていないことに気づかされた。等々

実技研修からは様々な振り返りができ、得ることは多いと感じている。今後も更に工夫を凝らした実習計画を立てていきたいと考えている。

また保育園内で感染症が広がってしまった時には、積極的に保健所の指導を仰ぐようにしている。正しい知識を持ち、職員が自信をもって子ども達の安心・安全な環境を確保できるよう努めている。

【考察】園内において今夏感染症(手足口病など)の爆発的な流行の兆しが見えた時、マニュアルに沿って迅速に手洗いや消毒方法を切り替え対処することができた。

《保育室に備えている嘔吐処理セット》

- ①帽子
- ②マスク
- ③手袋
- ④エプロン
- ⑤シューズカバー
- ⑥バケツ(目盛付)
- ⑦ビニール袋

全て使い捨て



全職員で行う研修や、座学と実践を分けての研修は職員の資質向上に繋がって行きますね。各園で工夫して、子ども達を守る方法を考えていきましょう。

研修から得られる知識とスキル

マジオたんぽぽ保育園日野ルーム

- ・研修案内が来ていることを朝礼で報告し、いつでも確認できるよう事務所に掲示している。
- ・研修を受けた際は使用した書類や報告書を作成する。
- ・職員会議で研修報告を行う。
- ・作成した書類は、全職員が内容を確認できるよう回覧する。
- ・いつでも読み返すことが出来るよう、研修資料は事務所に保管している。



保護者対応の研修

日頃から保護者に対し親身に寄り添い、丁寧な対応を心掛けていますが、研修の中で、支援をする上で必要とされる力の一つに「自己理解する」というものがあることを知りました。

自己理解の大切さ

これまでは、保護者対応時に相手の方の考えや思いを知ろうとしてきましたが、研修を受け、まずは「自分の価値を理解する」ことで、他者の価値・考えや違いに気づき、そこから保護者対応に必要な情報を収集出来るということを知り、「自身の興味・価値観や能力などしっかり見つめる」きっかけとなりました。



研修報告

研修報告を受けることで、自分も次回は同じ研修を受けてみたいと思ったり、そんな研修もあるんだ、と興味を持ったりすることにも繋がりました。定期的に研修報告を読み返すことで、学んだことを忘れずに保育を行えています。

研修内容の理解

職員会議の中で研修報告を行うことで、自園でのエピソード（事例）と重ねながら話し合うことができ、より研修内容の理解に繋がっていると感じています。



研修の内容を職員間で共有・共感することで、日々の保育を振り返り、保育力の向上に繋がりますね。その結果、保育観の共有も出来ると良いですね。

園内研修でのつながり、悩みの共有

むこうじま保育園

【保育園の取り組み】

幼児保育、乳児保育、障がい児保育等の様々なジャンルで、担当保育者が園内研修を行っている

【園内研修の意図】

各分野の学びを深め、担当保育者の専門性を伸ばす。更に、保育についてグループで考える習慣を作ること、職員間の連携を図る。

【園内研修のポイント】

園内研修担当者は、担当している分野について研修等で学びを深め、わかりやすく共有する。また、参加保育者同士が意見交換する場を提供する。

【参加保育者の利点】

園内研修を通して、各分野の知識を得たり、考えを共有することで自信がつく。また、ディスカッションでは先輩保育者の考えや経験談を聞き、悩みの相談も行える。

【担当保育者による園内研修の様子】



【グループディスカッションの様子】



【保育の悩みについてアドバイスを受ける様子】



【考察】

園内研修でグループディスカッションを行い、年齢や立場を超えて話し合い、相談したり悩みを共有したりすることで、職員間の連携、繋がりを深めている。また、保育の知識を深めることで自信がつき、前向きに保育が出来、園全体の職員の資質向上に繋がる。



園内研修によって悩みを共有し、お互いに意見交換が出来るのは良いことですね。また、悩みの共有によって、人間関係も円滑になっていきます。

安心感のある保育園

あらい保育園

◎全園児 60 人ほどの小規模園ならではの魅力

小規模園のため担当クラスだけでなく、全クラスの子ともと保育士で繋がりががあります。早番遅番の際の交流保育や、全園児が園庭で一緒に遊ぶ時間、職員同士の何気ない会話、配慮が必要な子のためのカンファレンス等で他クラスの子どもの様子を知ることができます。職員全体で子どもを把握し、見守る体制が整っていることで、子どもも職員も安心感が高まると感じます。また、クラスの子どもについて他クラスの職員のかかわりを見て、新たな気づきを得ることもできます。

他クラスの職員が子ども一人ひとりの特性を知っていることで、それに即したかかわりができます。例えば園庭遊びの際、広い園庭で遊んでいると、担任がすぐに対応できない場面がありますが、近くにいる職員が気づき対応することができます。子どもも困ったときには、近くの職員を頼れるような関係性ができているため、怪我や子ども同士のトラブルを未然に防ぐことに繋がります。

◎ベテランの先生方がいることで、安心感がある

先輩方は保育士歴の長い方が多く、保育の経験を活かしたアドバイスや指導をしてくださいます。分からないことや悩みを相談できることはもちろん、先輩方のフォローのもと、自分の行いたい保育に挑戦することができます。

運動会や発表会など行事では、内容や練習の進め方が思うようにいかずに悩むこともありました。しかし、そのような時にも先輩方が様子を伺ってくれたり、的確なアドバイスをくださったりするため、経験の浅い若手の職員も安心して取り組むことができると思います。

また、先輩方と日々一緒に保育をさせていただく中で、保育や業務について多くのことを学ぶ機会があり、保育士としてのスキルを高めることができます。



小規模園の良さを活かし、経験豊かな先生のアドバイスをを受け、安心して保育にあたれますね。

コミュニケーションがキーワード

あらい保育園

【大切にしていること】
「おはよう」「おつかれさま」のあいさつが
コミュニケーションの第一歩

始業前のラジオ体操

- ・朝礼前に職員が集まりラジオ体操を実施している。
- ・自分自身の怪我予防、1日を元気に過ごすためや、ラジオ体操をしながら職員同士の会話でコミュニケーションをとる。

休憩時間を取る

- ・保育室から離れ、気分転換をする。
- ・他の職員とたわいのない話をし、笑いあい、コミュニケーションを深める。

風通しのよい職場づくりをみんなで心がける

- ・一人で悩みを抱え込まず、声に出す。声に出せない職員を察知し声をかける。
- ・ベテラン職員は、前例にとらわれず、新しい情報を自分の中で更新させていく。
- ・保育士の気持ちにゆとりができ、子どもに落ち着いて接することができる。

隣のクラスの様子を知る

- ・クラス間に窓があるため、隣のクラスの活動や様子がわかりやすく、声をかけて連携や協力体制がすぐとれる。コミュニケーションも取りやすい。
- ・クラス内での問題や悩みを気軽に相談しやすい雰囲気づくりのきっかけにもなる。
- ・職員間の連携をとることで、園全体で子どもを見守る安心感がある。

自分自身ストレスを溜めず、休日はリフレッシュして過ごす

【職員の声】

- ・疲れていても休憩時間で大笑いしながらおしゃべりしてリフレッシュできている。
- ・新入職員はコミュニケーションをとることで、緊張がほぐれ、安心して働くことができる。
- ・上司への相談もしやすい環境である。
- ・ベテラン特有の凝り固まった頭や考え方を、あらゆる年代の人とかかわることで、柔軟な考えを取り戻し、新たな良い保育のヒントを得ることができている。



職員が心身共に、元気で健康に保育をすることは、子どもの健全な育ちにも繋がっていく大切なポイントですね。

先輩保育士の存在は大きい

ひよこハウス多摩平

学校を卒業し、すぐに保育士の仕事に就きました。クラス担当になったものの、動きが分からずおどおどしていた日が続きました。

そんなある日、ひきつった笑顔の私を見かねたのか、同じクラスの3年先輩の保育士が声を掛けてくれました。保育とは全然関係のない話で、前日観たテレビの話、どこのお店の何がおいしいとかそんな内容だったと思います。毎日のようにその先輩が話しかけてくれました。そのおかげで職場にも馴染め、仕事が楽しくなりました。

人との接し方や新入職員の育て方が難しくなってきた今日この頃。緊張し、何をして良いか困っている新人には、「体調はどう？疲れてない？」「毎日楽しんでる？」等、ちょっとした合間にこちらから声を掛けてあげる、好きな物事を探りながら共通の話題を見つけて話し掛ける等、「新入職員からは何も言ってこないな～」ではなく、まず『こちらから』の意識を持ち、笑顔で接し、園に馴染めるような雰囲気を作ってあげたいと思います。仕事のやり方も大切だけど、他愛のないコミュニケーションを取ることも大切なんだと言う事を自分の経験から感じています。まず、職場の人たちと慣れること、そこから「この仕事楽しい!!」と思ってもらえると嬉しいです。

自分が新入職員だった時の気持ち、いつまでも気持ちは1年目のように新鮮でありたいですね。



不安に思っている新入職員の気持ちを汲んで接してくれる先輩がいることは、心強いですね。

経験が浅かった時の失敗談として、今だから言えること

至誠いしだ保育園

保育士の仕事を長く続けていますが、失敗は今思えばいくつもありました。20代のころは体力もあり、毎日子どもたちとかけまわって遊びました。よく散歩にも行っていましたが、十分気を付けていたつもりでも子どもの怪我につながってしまったことがいくつかあります。初めて行った公園の滑り台がその子の発達に見合わない大きさだったため、その滑り台で勢いよく滑ってしまい、擦りむいてしまいました。いまなら絶対そんな無茶をさせないと思いますが、経験の浅かった自分の失敗です。その後は子どもの発達をよく知ることによって怪我も少なくなっていました。

保育士は、勤務時間がバラバラで早番や遅番など様々ありますが、自分の勤務を見間違えて遅刻したこともあります。体制もしっかり作ってありますので、一人が遅刻するとみんなでフォローしなくてはいけないので、大慌てで出勤したこともあります。

2年目の発表会では、準備に時間もかけ、連日残業や持ち帰り仕事が続き、発表会後に中耳炎になって高熱を出して休んでしまいました。発表会は何とか出席できましたがその後の勤務を休んでしまい大失敗となりました。体調管理もしっかりしないといけないことや、業務の進め方なども振り返り反省したできごとです。

このように長く保育士をしていると失敗は何度となくありました。正直この冊子には載せられない内容もいくつかあります。何度か「もう保育士辞めようかな」と思うこともありましたが、その度に、子どもたちからたくさん笑顔のもらい、同僚に助けてもらい、保護者の方からも励まされ、もう30年にもなりました。これからも今までの経験を活かして、この保育の仕事に誇りを持ち、長く続けていきたいと思っています。



失敗を経験として、次のステップに行かれるよう、周りの職員や保護者の協力も得ながら、スキルアップにつなげることが大切ですね。

良好な人間関係を目指して

上田せせらぎ保育園

〇〇さんの素敵ところ探し

本園にはすべての職員の素敵ところだけを集めた冊子があります。

役割に関係なく、思いのままにお互いの素敵ところを褒め合うことによって人間関係が良好になります。

相手のダメなところを指摘するのではなく良いところを認め合うことが大切だということは大人も子どもも一緒です。

普段伝えられないことを伝えられる機会を持つことで、チームワークや同僚性が高まります。

そして、なにより褒められることによって、自分自身のモチベーションの向上や自信に繋がっていきます。

相手の素敵ところを考える時間はとても楽しいものです。先生たちの思いを収集し一冊にまとめました。

次回は、2年後。それぞれの成長が楽しみです。

《一部抜粋》

- ・何を聞いても目を見て教えてくれる。どんなことも掘り下げてしっかり一緒に考えてくれる。
- ・毎日笑顔が素敵、ムードメーカー。
- ・明るい振る舞いがクラスを明るくしてくれる。
- ・全体を見て必要なところにいつもいてくれる。
- ・子どもたちの気持ちにいつも寄り添った言葉かけをしている。
- ・気持ちを汲んでいる。
- ・ノリが良くて面白い。話しかけやすい。
- ・子どもたちを楽しませるアイデアをたくさん持っていてすごい。
- ・気さくに声を掛けてくれるので安心感がある。
- ・穏やかな雰囲気が好き。怒ったところを見たことがない。
- ・楽しいと思う事を全力で楽しんでいるところ。



【職員の声】

全員分をいつでも閲覧できるようになっているので、他者からの見え方や、感じ方の違い、自分は知らない先生の意外な一面も知ることができました。先生方のことをここまで時間をかけて考えたり、素敵ところを探し出したりすることは普段ありませんでした。冊子作成に当たり、相手をより知ることができたり、あまり関わりのない先生の事も知ることができ親近感が湧いてきました。そして、何より貴重な時間を使ってみんなが私のことを考えてくれたことがとても嬉しいです。話のきっかけ（ネタ）として自然と会話やコミュニケーションが増え、子どもたちの話しもよくするようになり、保育の質が向上していると思います。私自身、たくさん褒められ、とても恥ずかしい気持ちがありますが、それ以上に嬉しく感じました。自分が意識していないところを褒められ、発見や自分自身の強みを知ることができ、励みになりました。素敵な仲間とずっと保育していきたいです。



ほめられると大人だって嬉しいですね。
働く意欲が湧き、一人ひとりの自信に繋がって行きますね。

悩みを話せる相手がいる職場

あおぞら多摩平保育園

同年代の保育士に相談

- ・悩み相談をするにあたって、年齢の近い職員同士の方が話しやすいのであれば、同年代の職員に話を聞いてもらう。

一緒に取り組む

- ・職員が困っている時は、アドバイスだけではなく、なるべく一緒に行い、物事を進める。

誰かに話す

- ・仕事の悩みや愚痴を誰にも言わずにいたら、『話を吐き出した方が気持ちが楽になるよ。』と言われた。ずっと秘めていたことを、誰かに話すことで気持ちはすっきりする。

非常勤保育士や新人保育士に寄り添う

- ・非常勤職員や新入職員、入職したばかりの職員は、自分が思ったことを伝えられない場合が多い。常に寄り添い、何かあった時などは、すぐにその日に話す時間を作るようにする。

相手の言葉を受け止める

- ・自分の意見ばかりを押し付けるのではなく、相手の言葉を聞き、受け止める方が素敵だと思う。

【職員の声】

- ・何でも話せる職場環境は、とても働きやすい。
- ・今まで言いにくかったことも、誰かが聞いてくれるから、話して気分がスッキリする。
- ・保育の悩みだけでなく、プライベートなことも聞いてくれるから、悩みが軽くなった。



何でも話せる仲間がいることは、働く意欲にも繋がりますね。

子育てしながら

栄光平山台保育園

出産後、職場も新しく変わり、子育てしながら手探りの生活が始まり不安でいっぱいの中、新しい職場には、様々な年齢の職員がおり、常に声を掛け合い働きやすい環境でした。

子どもの体調が悪く休んだり、保育園から発熱の連絡が入ると途中で帰らなくてはならず、申し訳ない気持ちでいっぱいになり「すみません!」が口癖に・・・。

そんな時、先輩保育士より「大丈夫!気にしなくてもいいんだよ、皆通ってきたことだもの、助け合うのは当たり前!今は皆に甘えていい時だよ!」と言ってもらえたこと。そして職場皆の温かな笑顔、“一人で抱えていた”という思いがなくなり肩の力がスーッと抜け、気持ちが軽くなりました。

今では子どもも成長し呼び出しの電話も少なくなり、子育てと保育を頑張る日々です。

子育ての相談に乗ってくれたり、時に私の指針となり、子育てと仕事と両立しながら働いている先輩は本当にカッコイイです。

自分もいつか、子育て奮闘中の後輩の背中を押してあげられるようになりたいと思います。



話しやすい仲間作りと自分の経験が後輩への励みになります。職場作りの上でも、“お互い様”の心を大切にしたいですね。

力を合わせてすすめる保育

芝原保育園

新型コロナウイルス感染症が5類になるまでの3年間でのエピソードです。この時期は、「まずは感染拡大防止」でした。この時期に行なった幼児クラス対象の「運動会」「発表会」は、保護者の完全入れ替え制や職員同士の接触機会削減のため、最小限の職員で運営することで乗り切りましたが、当日運営にあたる担任たちは分刻みの割り振られた役割を確実に覚えなくてはなりませんでした。

この時、助けてくれたのが乳児クラスの職員たちでした。“今日はうちのクラスから応援に行けますので、練習に参加してきてください” “私が応援に行ったら練習に参加できますよね?”、頼もしい申し出が次々出てきました。

幼児クラスの担任たちは、自分のクラスを応援してくれる職員に任せ、他クラスの練習に参加して、当日の自分の動きを覚えました。こうして、当日は最小限の職員で行事の運営をやり遂げていきました。

経験のある保育士が、急に担当ではないクラスに入って保育することは良くあるのですが、経験の浅い乳児クラスの職員が担任に代わってクラスに入りリーダーを務めることは、あまり機会がありませんでした。しかし、コロナ禍の行事以来、どの職員も周りの様子をみて、動いてくれることが、日常、自然と行われるようになってきたのは頼もしい限りです。当日の職員配置を確認し、クラスの状況によって他クラスへの応援を申し出てくれるようになりました。

年齢、家庭環境など、保育園で働く職員を取り巻く状況は様々です。急な休みで職員の配置に悩むこともあります。他のクラスや仲間の様子に心を配り、協力して保育をすすめる雰囲気があります。感じられるようになってきたことはとても嬉しいことです。

これからも、みんなで力を合わせながら「子どもにとって最善の保育」に取り組んでいきたいと思います。



子どものため、職員のために
力や気持ちを合わせていくこ
とは、とても大切なことです。

隙間時間のコミュニケーション

栄光たまだいら保育園

新年度になり15名持ち上がり、新入園児が3名加わり18名、持ち上がりの担任1名、新しく3名の職員が加わり、2歳児クラスがスタートしました。わくわくする事がたくさんあったり、新しい環境に緊張したり慣れないことから涙が出てしまう姿も見られました。まずは子ども達が落ち着く環境を設定し、楽しく過ごせる遊びを行えるように日々過ごしていきました。保育士はリーダー、サブ、フリーと仕事を分けてデイリーを回していきました。

朝のおやつが終わり、園庭遊びの準備をしていた時の事です。リーダー保育士が支度の終わった子どもたちに読み聞かせをしていると、支度をせずに走り回る姿や、つられて遊び出してしまう子が数名いました。サブの保育士が危険のないよう「走らないでね」と子ども達に寄り添い伝えました。子ども達があちこちに点々と動き出してしまう状況で、困っていたリーダー保育士に変わり、サブの保育士が子ども達を手遊びで誘い集め、歌に誘われて集まり始めました。

その後園庭遊びを行いました。ふとリーダー保育士を見ると、ほっとした様な表情の反面、どこか表情が曇っているようにも見えましたが、その時はそのまま保育に入りました。一緒にのクラスになった新しい保育士は、乳児クラスが初めてで、今までの経験や、自分の保育を通して、子ども達とのコミュニケーションを取っていました。そのような中、持ち上がりの保育士を求める子が見られ保育士間で言葉には表せない隙間の様な空間を感じる事が徐々に増えていきました。毎日の連絡帳の記入もあり、なかなか話す時間もなかったのので、どこから話していいのか、つい後回しになっていた事を改め、クラスが円滑に回っていくように午睡時間に話をしました。「なにか困っていることあるかな？」と話をしてみると「えっと・・・」返事に困ってしまったので、その日は見送りました。どうやっていこうかと考えた末、連絡帳を書くほんの少しの隙間時間に子ども達のその日にあった話をしてみました。「今日〇〇くん、自分からトイレにいかれたね」「〇〇ちゃん、1回野菜食べられたよ」など子どもの話からのやり取りを試みてみました。初めのうちは返事をして終わる会話も、日々繰り返していくうちに、「私も見ました」「かわいかったですね」などやり取りが、1つ、2つと増え同じ会話や、共有ができるようになりました。共有できるようになると、保育士間の動きも、あ、うんの呼吸も取れ、スムーズになり、子ども達の中でも、「誰がいい」などこだわる姿もなくなり、クラスが一つになっていく事を実感できるようになりました。

時間がないではなく作る事、その貴重な5分から始まった共有が、クラスの流れを作り、楽しい保育ができる環境へと繋がりました。今後も現場で大切にしていきたいと思います。



円滑なクラス運営には、経験豊富な先輩保育士の存在は大きいですね。

コミュニケーションのための挨拶と雑談

子どもの森あさかわ保育園

毎日忙しさの中でコミュニケーションを取っていくために心掛けていることが2つあります。

1 つは、体調が悪くても、昨日嫌なことがあっても、どんなに疲れていても朝は元気に挨拶をしようと決めています。もう随分前のことになりますが、元気にはつらつと挨拶をされた時に、疲れている自分を励ましてくれているように感じました。『みんなが気持ちよく働いていくのにとっても大事なものだ』と思いました。それ以来しっかり挨拶をし、相手の反応や表情で私なりの解釈をさせてもらい、元気がなさそうな人には一日のどこかで声をかけるようにしています。

2 つ目は、人の話に耳を傾け、興味がありそうな話題を積極的に見つけていくと意識しています。

耳を傾けていると「犬が好き」「犬を飼っている」という人が意外と多いということがわかりました。飼っている犬の話に一喜一憂し、盛り上がっている様子を時々見かけます。趣味や好みが一緒だとこんなにも盛り上がるのかと圧倒される時もあります。先日気付いたのですが先輩保育士も後輩保育士も「アイドル好き」が判明し、とても盛り上がる瞬間があり笑いであふれる時間を楽しんでいます。ちょっとした雑談からお互いのことが分かり、人間関係の距離が縮むとやさしい気持ちで接することができ、クラス、担当行事、会議など仕事をしていく上でもプラスに働いています。

コミュニケーションの第一歩は人と話すことです。

雑談が雑音にならないよう十分に注意しながら、だれでもできる雑談の中から、その人のよさを見つけ、よい人間関係を築いていきたいと思っています。



雑談をきっかけに、職員間の距離が近くなり、よりよい人間関係が築けると良いですね。

一緒に考えよう職員への声かけ

おおくぼ保育園

以前読んだ小説の一節に「責難は成事にあらず」という言葉がありました。そこには「否定したり非難したりすることは、何の解決にもならない。相手の考えを自分の価値観だけで否定して自分の思い通りに進めてもそれが、すべて正しく何かを成し遂げるものではない」という意味合いが込められており、「職員への言葉かけ」にもつながると感じました。

「その保育方法は違うわよ。間違っている。」と言う事はたやすいし、「こうすればよい。」と方法論だけを一方的に伝えれば、一瞬の見た目はそれで納まるかもしれませんが、それは表面的な解決でしかなく、根本的な解決（理解）ができていなければ違うシチュエーションで失敗を繰り返す、これでは何の解決にもなっていないと思うのです。

言われた側は、ただ「あー、また否定された。あの人の言うようにやっておけば文句ないでしょう。」相手はそんな思いだけが残ってしまいますよね。何か違うのであれば違うと示しながら、ではなぜ違うと思うのか、何が望ましいのか一緒に考えながら前に進んでいけると良いなと思っています。そのためには、ただ責めたり、非難したりするばかりではなく、まずは受け止め、「この人には話ができる…」そんなふうに思ってもらえたらいいなと思いながら、日々職員対応をしています。

例えば、表情が冴えない職員へはさりげなく声掛けをし、悩みがあれば話してもらえるようにしたり、失敗をしてしまった職員へは、共に原因や解決策を考えたりしています。職員が一人で抱え込まないような職場作りを心掛けています。

これってもしかしたら、保育士から子どもへの声かけにも当てはまるかもしれないですね。



ミスをしない人はいません。聞いてもらうことで心が開かれます。一緒に悩み、改善していくことでより良い保育に繋がります。

子ども・おとなも・元気で明るく楽しい毎日を!

栄光多摩平中央保育園

保育士になり子どもたちと過ごす中で、どんな事をしただけで喜んでくれるだろう?が頭の中でずっと巡っていました。子どもたちは何でそんなことが面白いの?とおとなが感じる事でも楽しそうに遊び続けます。好奇心旺盛でいつもワクワク、日々元気いっぱい姿から「〇〇してあげよう」ではなく、子どもたちと一緒に大人もワクワクする事が大切だと気づかされました。園長の立場になってからも、持ち前の明るさを活かして、明るく元気に楽しい事を発信しつづけています。

園の行事や日々の活動の中で、園長のお友だちだよと題して自作キャラクターを作り、手作り衣装に身を包んで遊びにいきます。子どもたちは「またきた～えんちよう、ちがう今日は〇〇だ」と大歓声!職員は大爆笑、保護者の方々からも「いつも楽しみにしています」との声をいただくようになりました。春は「はるかなぜふくこちゃん」セタには「ながれぼしほしおくん」、秋は公園で「どんぐりおくん」、運動会では「テンションアガリーノバスケットコーチ」、冬はサンタさんと一緒に「ラブリートナカイ子」など様々な場面で登場します。

子どもたちのワクワク体験を、いつまでも一緒に楽しめる保育士でありたいと思っています。その思いが少しずつ職員にも伝わり、「子どもを真ん中に考える」あり方が保育にも、会議でも現れて変化が見られるようになってきました。



子どもも、おとな(職員)も「きょうも、たのしかった～」と保育を楽しむ・遊びを楽しむことを身をもって伝えてきました。まずは自分自身が楽しく行動を起こし、皆を巻き込んでいくことで、職場は明るく、みんな笑顔になります。

もちろん言葉で伝える事も大事なことです。職員各々が思えば保育に、今は思いっきり取り組めない現状もあります。保育園や保育士に関する社会の目は厳しくなっています。現状はしっかり受け止め、保育のお仕事をもっともっと好きになって欲しいと思います。

伸び伸びと保育ができる環境作りは、職員、スタッフの皆で作り上げていくものです。皆の思いに寄り添い、声を聴き、対話を重ねていきながら「楽しい保育とは!」についてこれからも語り合っていきたいと思っています。そして私は、へんし～んをできる限り続け、元気で明るく楽しく、笑いを届けていきます。



園長先生をはじめ、職場のみんな
で保育を楽しむ風土が築かれて
いる点が良いですね。

保育の質向上のために

ひよこハウス豊田

園生活の中で得られる経験が豊かであるために、職員は人的環境を用意することが重要と考えます。物的環境と同様に人的環境を大切に考えています。子どもの状況や発達に合わせ、課題をとらえ、話し合いをし、環境を整えます。

その環境の中で対応する保育者は子ども達のお手本であり、子どもが穏やかに安心して過ごせる環境作りをしています。

気持ちよく・美しく・穏やかに過ごせるために、園内を整理整頓し、美しさを感じる環境を整えることで、子どもに良い影響をもたらします。

また、保育者が穏やかな気持ちで過ごすことにより、子どもはのびのびと育つように思います。

「心がけていること」

- ・子どもは1人ひとり違う存在であり、大人より時間がかかるので待つこと、話を聞く姿勢をもつこと
- ・遊びをやり遂げる自由を保障すること
- ・自分の選んだ遊びを最後までやり遂げる自由を保障すること
- ・年長児が年少児に関わる際には、生活の仕方が伝わるお世話の仕方をする
- こと
- ・育児を丁寧に行うこと
- ・その子の成長をよく知ること
- ・その子の信号を一つひとつ読みとること
- ・わかりやすい穏やかな言葉かけ、適切で必要な言葉かけをすること

以上を心がけながら、一日の大半を過ごす中で、子どもの活動全てがその子の成長に役立つよう環境を整え、大人（職員全員）のかかわり方で安心と満足を保障してあげられる、人的環境を整えていきたいと考えています。



大人が穏やかな関わりを心掛けることで、子どもも気持ちよく過ごすことが出来ます。

クラスの中から全体へ

栄光保育園

各クラスにはリーダーの保育士がおり、その下にサブリーダー、保育士はベテラン、中堅、子育て中、若手等、様々な保育士でひとクラスが構成されています。その中でリーダーはまとめ役です。

クラス

＊その日の子どもたちの様子や出来事、気になることなどをこどもたちが午睡をしている時に話しあい、共有しています。

若手が意見を言えないことがないようにリーダーやサブは配慮しています。
(例えば 嘔みつき・午睡ができない子・保護者のへの伝達法など)

乳・幼児会議

＊クラスの中で解決出来なかった事や、もう少し意見が欲しいと思う時は、乳児会議・幼児会議におろして話し合います。自分たちだけの問題にせず、経験者からのアドバイスや意見などをもらって解決していきます。

職員会議

＊ここでは、事前にクラスの状況を知らせておき、皆で話し合わなければならない事を中心に行っています。一つの問題に他方からまた、たくさんの知恵を出し合って話をしていきます。すでに、乳幼児会議で問題解決ができていれば短時間で済みます。会議では、必ず一人一言発言することが大切な事と感じています。

爽やか会議

＊非常勤職員やパート職員（本園では、爽やかさんと呼んでいます）にも職員会議の内容を伝え、意見をもらったり、アドバイスをもらったり、また、自分の困った事や気が付いたことなども話してもらいます。



毎日の朝礼ではその日の活動予定、皆で共有したい事、アレルギー食の確認など朝礼に出られなかった職員全員がノートをみて確認しています。

“笑顔で優しく丁寧に”保育士のモットーを一人一人がいつも頭において保育を進め、笑顔の絶えない風通しの良い職場を心掛けています。



話し合える体制が日常化していることがいいですね。
忙しい中でも、全職員で風通しの良い職場環境作り
を心掛けたいですね。

**職員同士がよりよい人間関係を構築し、
職場がいつも明るく笑顔でいられる環境づくりをするために**

日野第二保育園

私たちの保育園では、職員みんなが「仲間を知り心を開き理解できる」人になれるようにしています。これは、普段、顔を合わせる時や、保育中の関わりなどで、「お疲れさま」とか「ありがとうございます」という日頃から自然と出てくる言葉がけなどで感謝の意を伝え、保護者に対しても積極的に笑顔で会話を交わすなど、関わりのある人たちすべてに声掛けをし、お互いの心を開くよう心がけています。

加えて職員同士のコミュニケーションの活性化を目標とした「リフレッシュ Day」という活動を年2回行っています。その事例として、職員全員でビンゴゲーム大会やミニ運動会、ゲーム大会を企画し、普段仕事以外ではなかなか話をする事ができない他学年の先生と一緒に、ビンゴ大会で当たった景品の話で盛り上がり、お互いの趣味や普段の生活のことを話したりして、これも心を開くことにつながっています。またミニ運動会やゲーム大会では、その競技でチームを作り、そこでお互いの得意な役割、苦手なところを確認して、みんなでカバーしあう気持ちを作ることができます。これらの活動を通して、中堅・ベテラン職員は、新人・若手職員が仕事や普段の生活で悩んだり問題を抱えるような場合、その問題をみんなで共有し積極的にかわりアドバイスすることで、職員全員に責任感が生まれ、自分の自信となり視野を広めることもできます。そして良好な人間関係を築くことで、保育園が明るく風通しのいい職場環境だと言えると思います。



苦手なところも認め、完璧を求めず理解し合えるチーム作りが大切です。職員全員が心を合わせ、何でも語り合える職場作りを心掛けましょう。